

好酸球性食道炎 胸のつかえや胸焼け

正しい診断がつかない場合も

食道に好酸球という白血球が集まり炎症を起こす好酸球性食道炎（EoE）は厚生労働省の指定難病になっている。国立成育医療研究センター（東京都世田谷区）研究所好酸球性消化管疾患研究室の野村伊知郎室長は、「研究が進み、治療のガイドラインも確立されていますが、この病気を知らない医師も多く、正しい診断や治療が行われていないケースがあります」と指摘する。

30～50代男性に多く

口から始まり大腸までつながる消化管のうち、食道にだけ炎症が起るのがEoEだ。野村室長は「小児から成人まで発症し、特に30～50代が目立ちます。また、女性よりも男性に多い特徴があります」と説明する。2013～17年の調査では、好酸球性消化管疾患の39%を占め、04～09年の調査の約2.5倍と確実に

増加しているが、要因は不明だ。炎症の原因は食物の刺激によると考えられ、原因食物を摂取して数時間から数日、場合によっては数カ月後に症状が出る。花粉が原因になることもあるという。炎症が繰り返しされると食道が細くなり、飲み込みづらさや胸焼けなどの症状

が出る。小児の場合は、胸の痛みを訴えたり嘔吐を繰り返したりする。

治療は長期戦

診断には、内視鏡検査と組織を採取する生検を行う。内視鏡画像で縦方向の筋（縦走筋）やリング状の筋（輪状筋）、白い斑点などの特徴的な所見が認めら

れ、生検で視野内に好酸球が15個以上確認されるとEoEと診断される。

治療は、胃酸の分泌を抑制するプロトンポンプ阻害薬（PPI）を服用する。効果がなければステロイドの局所療法を行う。吸入薬を服用して食道に付着させると、食道にのみ効果を表します。肝臓ですぐに分解されるので、副作用が非常に少ないのが特徴です。大半はこの二つの治療で症状が落ち着く。原因となる食物除去を行うこともあるが、特定が難しい場合も少なくない。

近年、好酸球を呼び寄せる鍵となるIL-13というタンパク質を中和する薬の開発も進んでいる。同センターでは、患者向けの詳しい情報を記したウェブサイトを公開しており、治療に詳しい医師のリストも作成中という。

野村室長は「EoEは長期管理、長期治療が必要で、中断すると再発しやすい病気です。丁寧に診察する消化器内科を受診してください。エビラドバイス（メディカルトリビューン）時事」



子どもでも発症するが、中年男性に多い